

さまよう刃

東野圭吾

少年犯罪を扱った本書。映画化もされ話題になった作品です。物語は主人公・長峰の一人娘が、未成年の少年グループによって蹂躪され、殺害されることから始まります。長峰は、復讐のため、犯人の一人を殺害し、突き動かされるように、もう一人の犯人も殺害するため逃走します。復讐することだけに生きる意味を見出す長峰。逃亡中に出会う人々や警察との関係、そして世論の動きなど、次々と変化する展開に引き込まれ、一気に読み終えました。結末にアツと驚くような真実があったものの、期待していたものと違っていましたが……

私は、主人公の長峰に同情し、警察に捕まらず目的を達成して欲しいと思って読んでいました。それは、被害者からだけの視点で描かれているうえ、被害者の少年達の生い立ちや、どのような気持ちで犯行に及んだのか、追われている時の心理などの描写がなかったためかもしれません。

もし、実際に長峰のような人に出会ったら何と言うだろうか？ 自分が長峰の立場だったらどうするのか？ もし、加害者の少年達と顔見知りだったら・リアルに考えようとするほどの、考えがまとまりません。今はまだ、「未成年だからといって許されるものではない」「しかし殺人はいけないのではないか」という、ありきたりの言葉しか出てきません。

あつて欲しくない事件ですが、現代社会で実際に起こっている事件を題材にした本書。重く哀しいテーマに考えさせられた本です。

山岡



角川文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞